

開催地名	長野県 須坂市
開催日時	令和7年1月25日(土)14:00～15:30
開催場所	須坂市消防本部 大会議室
語り部	渡辺 一夫(長野県佐久市)
参加者	自主防災組織ほか市民 100人
開催経緯	災害経験者が高齢化により減少しており、災害の継承が課題となっている。令和元年東日本台風や令和6年能登半島地震を受け防災意識が向上してはいるが、公助にたよっており自助、共助の意識向上が課題となっている。
内容	■ 自己紹介 講師は、かつて臼田町(現佐久市)の消防団副団長、団長を歴任し、防災活動に長年携わってきた。2002年には防災功労者として内閣総理大臣表彰を受賞し、2012年には秋の叙勲で瑞宝単光章を受章した。また、令和元年の東日本台風の際には佐久市入沢区の区長を務め、地域の防災対応に尽力した。 ■ 災害前の入沢地区の概要 災害発生前の入沢地区の様子については、旧青沼小学校の3年生がまとめた資料が紹介された。入沢地区は川の周辺に住宅が密集している地域であり、川沿いには豊かな緑が広がっていた。また、地域住民の生活に欠かせない橋がいくつも存在し、その中には生活橋として使われていた橋もあった。さらに、地域の中心には神社があり、毎年の盆踊りなど、住民が集う伝統的な行事が行われていた。 ■ 一生懸命に取り組んできた地域活動 講師は長年にわたり、地域の活性化や防災に関わる活動を精力的に行ってきた。幼少期には、地域の住民に見守られながら育ち、そうした支えに感謝していると述べた。その後、自身の成長とともに地域活動への関心が高まり、さまざまな取り組みを進めてきた。昭和57年には「ふれあい橋の会」を結成した。この活動は、町長選挙に立候補して落選したことがきっかけだったという。その際に、多くの若者たちとつながる機会を得たことが、地域活動の発展につながった。 平成16年には「一歩の会」を結成し、日本の伝統文化を継承することの重要性を訴えた。現代社会では地域のつながりが希薄になりつつあることを憂い、世代を超えた交流の場をつくることを目的とした。 さらに、平成26年には「入沢鳥獣被害対策協議会」を設立した。入沢地区では、鹿などの野生動物による農作物の被害が深刻化しており、地域全体で問題に取り組む必要があった。こうした対策活動を進めることで、農業の持続可能性を高めることを目指した。 また、平成28年には「ふれあい広場」を開設した。かつては25年間にわたり地域運動会を開催していたが、少子高齢化の影響で運営が難しくなったため、音楽演奏やさまざまな交流ができる広場として活用する形に変えた。この取り組みにより、地域住民が集い、コミュニティのつながりを維持する場が確保された。 こうした長年の活動を通じて、多くの仲間ができた。この仲間たちは、令和元年の東日本台風の際に災害対応に尽力し、地域を支える重要な存在となった。 ■ 令和元年東日本台風の状況 令和元年の東日本台風では、これまで経験したことのないほどの豪雨が降り続いた。たった1日で1年の半分に相当する降水量が記録され、地域の河川は急激に増水した。ドライブレコーダーの映像を振り返ると、川の水位が異常な速度で上昇し、勢いよく流れる様子がはっきりと確認できた。この映像は、台風による河川の水増水がいかに危険であることを示す貴重な記録となった。 台風の影響で地域の橋は損壊し、住宅やインフラにも深刻な被害が及んだ。こうした災害を経験し、地域防災の重要性が改めて認識された。今後も、地域の連携を強化し、災害に強いまちづくりを進めることが求められる。

	
開催地より	住民の「共助」の大切さについて講演をいただいた。特に避難所については市と住民、住民同士の協力が不可欠であり、この講演を通じ今後の災害に活かしていきたい。